

氏 名：森 安 恵 実  
学 位 の 種 類：博士（看護学）  
報 告 番 号：甲第118号  
学 位 記 番 号：博第114号  
学位授与年月日：令和6年3月13日  
学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当  
論 文 題 目：看護師の Rapid Response Team（RRT）要請に至る要因の尺度開発と関連要因の検討  
Instrument Development of Factors Leading to the Activation of Rapid Response Teams  
for Nurses and the Examination of Relevant Factors  
論 文 審 査 員：主査 三 浦 英 恵  
副査 川 原 由佳里（正研究指導教員）  
副査 本 庄 恵 子（副研究指導教員）  
副査 岡 田 彩 子  
副査 吉 川 悦 子

## 論文審査の結果の要旨

### 審査の概要

Rapid Response System（RRS）は入院患者の予期せぬ心停止による死亡や急変を防ぐことを目的としたシステムである。本邦では2010年頃から導入が始まり、2022年の診療報酬改定で急性期充実加算の要件となり本格的な整備が始まった。しかし、RRSは導入すれば直ちに効果を発揮するものではなくベッドサイドで観察をする看護師のRapid Response Team（RRT）要請に至る要因の解明が、RRSの効果を導き出すうえで鍵である。諸外国の研究では、看護師のRRT要請に関連する要因や、RRSの教育や知識などを測定する尺度がある。しかし、RRSの本格的整備が始まった本邦において、どのような要因が看護師のRRT要請に関連しているかも明らかになっていない。そこで、本研究は看護師のRRT要請に至る要因の尺度

（Instrument of Factors Leading to the Activation of Rapid Response Teams for Nurses：FLAR for Nurses）を開発し、信頼性と妥当性を検討すること、開発した尺度を用いて看護師の個人特性、所属する施設の特性、ならびにRRS要請との関連を明らかにすることを目的に行われた。

研究デザインは、自記式無記名式質問紙による因子探索型ならびに関連探索型量的研究であった。研究参加施設は、国内の特定集中管理料または救急加算を取得している400床以上の病床数をもつ49施設で、1年以上RRSを実装している病院に勤務し、RRTの要請を検討したことのある一般病棟の看護師から得られた1,633件のデータを分析した。開発した尺度は44項目で、それぞれ3因子からなる促進尺度と障壁尺度の2つの下位尺度で構成された。促進因子は【RRTへの信頼と期待】【予測や見通しの確信】【看護師としての価値観と責任感】、障壁因子は【気づきや判断が困難な状況】【RRTに対する否定的な見解】【医師への気兼ね】と命名した。尺度のCronbach's  $\alpha$ は.865であり、一定のモデルの適応度や信頼性係数が得られ、構成概念妥当性を確認した。

本研究で開発した尺度：FLAR for Nursesは、看護師がRRT要請を検討する場面に焦点を当てたものであり、患者の状態への気づきと判断、看護師としての価値や責任感、RRTに対する評価、同僚や担当医の影響など、RRT要請に至る要因を幅広く捉えた諸外国にはないオリジナルの尺度であることが評価された。さらに、RRSが診療報酬上で加算要件となった2022年における、本邦でのRRSの現状を捉えた初めての論文でもあることも評価された。研究者の臨床実践における関心に深く根差しており、この尺度を活用することで、施設全体の傾向を障壁や促進要因として評価し、課題を具体化することにつながることで期待できる。また、個人や部署のRRT要請や要請を躊躇する傾向を知ることにつながり、個人や部署の課題を内省する機会となる。更には、RRSの定着や促進につながることで、安全で効果的な医療提供に貢献することが期待できると評価された。研究者はこれまでの臨床実践の中で、看護師として長年に亘り、RRSの重要性を普及してきており、尺度を活用することで益々、本邦におけるRRSの発展に寄与することが期待される。

審査の結果、本論文は本学の審査基準を満たしていると判断し、博士（看護学）の学位論文として「合格」と判定した。